

育保育現場において文化の連続性と非連続性について考え、何を大切にしていくのか、食育プログラムの実践が貢献することは多くあると考えられることであろう。

### 3. 「対話的学び」による食育プログラム実践

4 カ国の実践が「学びとケアのコミュニティ」として機能し、「総合的な学び」を展開している背景に、「対話」の多さを見出すことができる。保育者をはじめとするおとなが子どもに伝える、保育者が保護者に伝える、お年寄りや専門家が保育者に教える、といった一方通行的な学びの展開ではなく、子どもも声を発することが許され尊重される両方通行的な学びの展開である。米国の実践では、保育者と子どものキャッチボールを経て食べ物リストやクッキングブックが作成された。ニュージーランドの実践からは、保育者の質問への子どもの返答から子どもの認知発達が読み取れるであろう。また、中国の実践からは、子どもが主体的に食することが進められることにより、子どもが食をはじめとして生活に対しての責任を持てる人間へとエンパワーメントであることが読み取れる。対話的学びにより、食育プログラムの実践が、生涯学習への学びのプロセスであることを4カ国の実践は示している。

本稿で取り上げた実践は、4カ国の少数例であり一般化はできない。また、日本の実践の場でもこうした取り組みを展開しているところもあるだろう。しかしながら、諸外国の実践を探ることで、日本に何が大切であるか今後取り組むことが明らかになったのではないだろうか。今回とりあげた実践をそのまま導入することは効果的であるとはいえない。日本の現場において、食育プログラムの実践において求められていることを明らかにしつつ、日本の文化背景と生活様式を考慮しつつ子どもの最善の利益をもたらす食育プログラムの開発を検討していきたいものである。

#### [謝辞]

さいごに、本研究をすすめるのにあたり、実践への見学・観察を快諾くださったニュージーランドのC幼稚園の先生方、韓

国のP保育園の先生方、並びに英文和訳を始め協力くださった方々に心より御礼申し上げます。

#### E. 引用文献等

- 1) 保育所における食育研究会編「子どもが輝く乳幼児の食育実践へのアプローチ」(財団法人 児童育成協会児童給食事業部発行 2004年)をはじめ、多種の出版物、また、全国私立保育園連盟等が主催する研修大会においても食育が分科会のテーマとして取り上げられている。
- 2) 米国に限定した場合に関して述べると、“Early Childhood Research Quarterly”, “Young Children”, “Childhood Education”をはじめとする保育関係者向けのジャーナル、NAEYC, ACEI 等幼児教育分野の職能団体の研究大会、さらに、筆者の体験による。
- 3) 日本ユニセフ協会ホームページ参照 <http://www.unicef.or.jp>
- 4) 子どもの食アレルギー、偏食、食環境、こどもの食をめぐる教育のあり方等。
- 5) ちなみに、日本保育学会の会員は約6000人である。(2006年3月現在)
- 6) 1997年に改訂されている。本稿では1997年版のDAPから提示している。(NAEYCでは、10年毎に改訂出版する姿勢を打ちだしている。)本稿では、日本語版、小田豊・白川蓉子監修DAP研究会訳『《誕生から小学校低学年にかけて》乳幼児の発達にふさわしい教育実践 21世紀の乳幼児教育プログラムへの挑戦』(東洋館出版社 2000年)から出典した。
- 7) Schenkelberg, E. (2003). Teachers on Teaching: In a Child's Kitchen. In “Young Children.” November, NAEYC; Washington, D.C., pp. 94-96.
- 8) Holland, M., (2003). “That Food Makes me SICK!” In “Young Children.” November, NAEYC; Washington, D.C., pp. 42-46.
- 9) 丹羽孝「諸学校のしくみを考える：韓国」小田豊・森眞理編著『教育原理』北大路書房、2005年。筆者の個人的な会話等による。
- 10) チャイルドネット。ベネッセ2005年9月から

## 7. 保育所の食育プログラムと保育実践との連動性

分担研究者 師岡 章 白梅学園短期大学 助教授

### 研究要旨：

保育所における食育プログラムと保育実践の連動性を担保する食育の計画様式、及び実践の内容・方法の開発を考察。保育所の各種計画、あるいはモデル園の実態を把握する中、今後、保育の計画を食育の視点を含めて作成すること。保育実践の特質に基づいた評価方法を考案すること。計画－実践－評価のプロセスを全職員の連携のもとで展開すること。家庭・地域との協力の必要性などを指摘した。

### A. 研究目的

本研究の主題は、食を通じた子どもの健全育成のために、乳幼児とその保護者に向けた食育プログラムを開発するとともに、その評価方法を解明することである。

そのうち、本分担研究は、保育所における食育プログラムと保育実践との連動性に視点を当て、連動性を担保する食育の計画様式、及び実践の内容・方法の開発を目的とする。

以上の目的を踏まえ、本年度においては、次の2点を具体的に取り組んだ。

- 1)食育プログラムの開発に向けた基礎的研究として、食育の視点を含めた保育所の各種計画を収集し、全般的な傾向とその課題を整理する。
- 2)乳幼児期を対象とした食育プログラムを仮説として設定し、実施する場となるモデル園の実態を把握し、次年度の取り組みに向けた課題を整理する。

### B. 研究方法

以下に示す方法により、上記2点の研究課題の検討を実施した。

- 1)ベースライン診断を実施した地域のうち、首都圏の2地域（神奈川県川崎市、神奈川県相模原市）と、同地域近郊の3地域（東京都稲城市、東京都町田市、神奈川県平塚市）の保育所を対象に、食育の視点を含めた保育計画及び指導計画の資料提供を依頼し、郵送法にて回収する。収集した保育計画及び指導計画の様式を類型化し、その傾向と課題を整理する。
- 2) ベースライン診断を実施した2地域（神奈川県川崎市、神奈川県相模原市）から、食育プログラムを開発・実施する4つの公立保育所を選定し、面接法により、各保育所の現状を把握する。同時に保育計画及び指導計画等の資料を収集する。収集した保育計画及び指導計画の傾向と課題を整理する。

(倫理面への配慮)

保育計画及び指導計画等の資料収集にあたっては、保護者及び施設長に対し、書面にて研究の主旨、方法、個人情報の保護などを説明し、負担を軽減する最大の配慮を行う。プライバシーの保護のため、個人が特定される情報と研究に必要な基礎資料は切り離して管理し、個人情報の漏洩などを防ぐ対策もとる。

また、対象園の選定に際しては、研究者と保健行政、福祉行政担当者などとの間で、調査の実施、資料の取り扱い、対象者への説明方法などに関して十分な協議を行う。その上で、対象園の保護者、全職員に本研究の目的・意図を書面及び面談により十分に説明して同意を得、研究終了後は得られた情報を提供する。

## C. 研究結果

### 1) 食育の視点を含めた保育所の各種計画の全般的状況

資料収集の結果、東京都稲城市4園、東京都町田市3園、神奈川県川崎市21園、神奈川県相模原市5園、神奈川県平塚市5園、の計38園から124件の資料が収集できた。うち、保育計画・指導計画など保育の計画が53件、給食計画・食育計画など食に関する計画が52件であった。また計画と実践記録がセットになった資料が19件あった。

このうち、まず保育計画・指導計画に関しては、表1～2に示した相模原市公立A保育所の保育計画に見られるように、園として保育修了時に目指すべき子ども像を保育目標として掲げた上で、発達の特徴を踏まえ、年齢別に「ねらい」と「内容」を示す様式が一般的であった。「内容」に関し

ては、『保育所保育指針』を参考に、乳児組は「生活とあそび」と領域区分を行うことなく一括して示していた。一方、幼児組に関しては、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」といういわゆる5領域から内容を構成していた。年齢区分に関しても、『保育所保育指針』を参考に乳児組は細かく、幼児組は満年齢毎に保育の見通しを示していた。

次に、食に関する計画に関しては、保育所毎に多様な様式が見られた。それらは大別すると、「食事」あるいは「給食」という従来から用いられた観点から編成された計画と、「食育」という新たな視点を明確に掲げて編成された計画に分けられる。

このうち、「食事」あるいは「給食」という従来から用いられた観点を編成された計画の代表例は、表3に示した町田市私立B保育所の食事年間指導計画表と、表4に示した川崎市公立C保育所の給食年間計画である。表3の町田市私立B保育所の食事年間指導計画表は、子どもの年齢区分は特になく、月別に重視すべき事柄をコンパクトに4つの項目から構成している。すなわち、月別に提供される食事に向かう態度を「目標」、目標を実現するための配慮事項を「指導内容」、旬を意識した食材・献立を「季節の食べ物」、食に関わって子どもが参加する取り組みを「子どもの活動」としている。

これに対して、川崎市公立C保育所の給食年間計画は、まず年間目標を掲げた上で、衛生・調理の両面から年間通して配慮すべき事項を整理している。この目標・配慮点を踏まえ、月別ではなく、年間を4期に分け、「食事・栄養指導内容」「配慮点」を

示している。特に、「食事・栄養指導内容」は、乳児と幼児に二分していることから分かるように、年齢的な特徴を踏まえた内容構成に努めている。さらに、「給食だより」「会食等」といった項目も作り、大人側が進めるべき保護者への情報発信、行事の見通しなども含めて計画を作成している。

このように、「食事」あるいは「給食」という従来から用いられた観点で編成された計画も、比較的コンパクトに作成されるものと、多様な取り組みを網羅したものの2種類が存在していた。

最後に、「食育」という視点を明確に掲げて編成された計画に関してだが、これも保育所毎に多様な様式が見られた。その代表例は、表5に示した平塚市私立D保育所の食育年間計画表、表6～7に示した稲城市私立E保育所の調理保育・食育計画、表8～9に示した平塚市私立F保育所の年齢別食育年間計画である。

このうち、表5の平塚市私立D保育所の食育年間計画表は、食育に取り組む上で、年間を通して重視すべき事項を年齢別にコンパクトに整理している。その内容は、おおむね食習慣・マナーに重点が置かれている。こうした様式を採用している保育所では、調理や栽培、行事など食に関わる他の活動計画を、別個に作成するケースが多い傾向も見られた。

これに対して、表6～7に示した稲城市私立E保育所の調理保育・食育計画と、表8～9に示した平塚市私立F保育所の年齢別食育年間計画は、比較的詳細に指導すべき事項を掲げている。

まず、稲城市私立E保育所の調理保育・

食育計画は、2歳児以上を対象に、調理保育及び食育の年間目標を掲げた上で、「家庭との連携」そして調理活動を総合活動として位置づけた上での「ねらい」を明らかにしている。また、「調理保育に関わる行事」を始め、栽培活動を「畑の収穫」、食習慣・マナーの形成や栄養素の指導などの具体的な内容・活動テーマが年齢別かつ月別に整理されている。

一方、平塚市私立F保育所の年齢別食育年間計画は、0歳から6歳まで、つまり入所する全園児を対象に、「ねらい」「子どもの活動」「保育士の配慮」「栄養士との意思疎通」「備考」「反省」の6項目から食育に取り組む上での指導の重点が示されている。このうち、2歳児未満に関しては、3～6ヶ月未満児、6～9ヶ月未満児、6～12ヶ月未満児、12ヶ月～1歳3ヶ月児、1歳3ヶ月～2歳未満児までと詳細に年齢を区分した上で、食事内容の変化を見通した計画となっている。3歳以上児については、年間を4期に区分した上で、指導の系統性を配慮している。保育士あるいは栄養士だけといった一職種だけの観点にとどまらず、両者が自覚すべき事項が整理されているところもユニークである。

このように、「食育」という視点を明確に掲げて編成された計画も、比較的コンパクトに作成されるものと、多様な取り組みを網羅したものの2種類が存在していた。また、対象年齢も、幼児初期から計画を作成するものと、入所する全園児を対象とする場合があること。さらに、食育を担うべき職種に関しても相違が見られることなどの傾向も明らかとなった。

表1 相模原市 公立A保育所 保育計画 その1 (乳児組)

保育計画

保育目標 年齢	心身共に健康な子・個性豊かな子・思いやりのある子			2歳未満		2歳	
	4か月未満	6か月未満	1歳3か月未満	2歳未満	2歳		
ねらい	一人ひとりの生活のリズムの安定をはかり、快い生活ができるようにする。	スキンシップを充分とりながら、見る・聞くなど感覚が豊かになるようにする。	体を動かして遊ぶことを楽しむ。	安全な環境の中で基本的欲求を十分満たし、快適に生活できるようにする。	安全な環境の中で楽しく生活できるようにする。		
	生理的欲求を十分に満たし、心地よい生活が出来るようにする。	一人ひとりに応じて離乳を進行し、個人差に応じて授乳を促す。	玩具や身のまわりのものを十分に楽しむ。	身のまわりのいろいろな物に興味をもち探索活動を楽しむ。	身のまわりのいろいろな物に興味をもち探索活動を楽しむ。		
内容	個人差に応じて授乳を進行し、個人差に応じて授乳を促す。	一人ひとりに応じて離乳食を進める。	いろいろな食品に慣れながら幼児食へ移行する。	保育士や友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知る。	保育士や友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知る。	・楽しい雰囲気の中で食事をする。	
	やさしく語りかけたり、喃語に応じてもらったりして、保育士との関わりを楽しめるようにする。	安心できる保育士に見守られ、一緒に遊ぶことを喜ぶ。	身近な大人との温かいふれあいで愛着関係が深まり、安心して過ごす。	保育士に真守られながら、少しずつ友だちとの関わりを持つ。	保育士に真守られながら、少しずつ友だちとの関わりを持つ。	・様々な活動を通して、友だちと遊びを共有する楽しさを味わう。	
容	一人一人の子どもの生活のリズムを大切にしながら、安心して過ごせるようにする。			安全で活動しやすい環境の中で、思い思いに体を動かしたり、探索活動を楽しむ。	安全で活動しやすい環境の中で、思い思いに体を動かしたり、探索活動を楽しむ。	・全身をつかう運動を取り入れたり、手や指をつかう遊びを楽しむ。	
	泣き声や喃語に反応してもらいながら、発声・喃語を育む。	話しかけてもらったり、あやしてもらったことを楽しむ。	やさしく語りかけてもらったり、発声や喃語を受けとめてもらいながら、発語を楽しむ。	保育士の話しかけを喜んだり、簡単なことばのやりとりを楽しむ。	保育士の話しかけを喜んだり、簡単なことばのやりとりを楽しむ。	・身の周りの事物などに触れ、好奇心をもち、探索や模倣をして遊ぶ。	
	泣いて生理的な不快を表現する。	身近な人の声を覚え、喃語で表現する。	生活やあそびの中で保育士のことなどに興味を持ったり、模倣したりすることを楽しむ。			・絵本や紙芝居を楽しんでみたり、聞いたりし、言葉の模倣を楽しむ。	
						・保育士といっしょに様々な素材に触れて楽しむ。	
						・リズムに合わせて体を動かし、手あそびや歌を楽しむ。	

表2 相模原市 公立A保育所 保育計画 その2 (幼児組)

保育計画

保育目標 年齢	心身共に健康な子・感性豊かな子・思いやりのある子	4歳	5歳	6歳
ね ら い	生活に必要な基本的な習慣が身につくようになる。 身近な人と関わり、友だちと遊ぶことを楽しむ 外で充分に体を動かしたり、様々な遊具・用具を使った遊びを楽しむ。 楽しい雰囲気の中で様々な食べ物を進んで食べようとする。 介助されながら衣服を自分で着脱する。 友だちと関わって遊ぶことを喜ぶ。	生活に異通しを持ち、身の回りのことを自分でしようとする。 あそびや生活を通して様々な経験をすることで、友だちや異年齢児とのかわわりを広げたい。 いろいろな用具や道具を使い、体を十分に動かして遊ぶ。	意欲的に遊び、いろいろな経験を自信につなげていく。 異年齢との関わりの中で自分の役割を自覚し、年下の子の面倒を見てあげられることを喜ぶ。 基本的な生活習慣が身につくまで継続できるようにする。	何事にも積極的に関わり、経験を広げていく。 いろいろな書物・草花にふれ、性質・形・量などの感覚を豊かにする。 基本的な生活習慣が完全に身につくまで、身のまわりをきれいにしようしたり、自分のもの、共同のものを大切に使う。
	健康	食事をしたり、体を清潔に保つたりすることの大切さを知る。 集団遊び・共同制作を通して、仲間という安心感やクラスの仲間とのつながりの心地よさを感じる。 気の合う友だちと好きな遊びを楽しむ中で、自分の思いを出したり、相手の思いにも気づいたりする。 友だちと生活する中で、決まりの大切さに気づき、守ろうとする。	様々な運動器具に進んで取り組み、工夫して遊ぶ。 友だちへの関係や親しみを深め、友だち同士で工夫したり考えたりしながら遊びを広げていく。 友だちや年下の子に思いやりをもって接する。	自分から集団の決まりや約束を守る。 友だちと協力して目標に向かって最後までやりぬく。 自分の気持ちを伝えたり、相手のことを考えたりしながら行動する。
内 環 境	さまざまなごっこ遊びを楽しむ。 自分のものの人のものの区別を知り、共同のものとの区別に気づく。 いろいろな行事に参加して、喜んだり楽しんだりする。	育てている動植物の世話を怠らないうち、気配の不思議さや大切さを覚える。 友だちと言葉のやりとりを楽しみながら、気持ちを伝え合って遊ぶ。 経験したこと、感じたこと、思ったことなど友だちや保育士に自信を持って伝える。	身近な動植物に関心をもち、いたわったり世話をすることを楽しむ。 身近なものを大切に扱い、自分の持ち物を整理する。	自然現象に親しみ、変化、大きさなど興味を持って、それを遊びに取り入れてみる。 物の使い方がわかり公共のものなど大切に使う。 簡単な数の範囲で物を数えたり、比べたり、順番を言ったりする。
	言葉	あいさつ・返事など生活や遊びに必要な言葉を使う。 自分の思ったこと、感じたことを言葉に表し、保育士や友だちとの言葉のやりとりを楽しむ。 絵本などの内容がわかり、イメージをもつて楽しんで聞く。 様々な素材・用具を使って、好きなように描いたり形を作ったり遊ぶ。 音楽に親しみ、聞いたり歌ったり体を動かしたり楽器を鳴らして楽しむ。	自分の気持ち、想像したこと、経験したことなど、言葉を使って相手に伝えることができるようになる。 文字に興味を持ち、書いたり、読んだりして言葉の世界を広げていく。 人の話を注意して聞く。	日常生活に必要な言葉を適切に使う。 絵本や物語のおもしろい言葉や美しさに気づき、使ってみる。
表 現		絵本や生活の経験からイメージを広げ、描いたり作ったりさまざまな表現で楽しむ。 リズムに合わせて踊ったり、自由に体を動かして、イメージを自分なりに表現して楽しむ。	身近な素材を使って工夫し、かいたりばい制作する。 楽器に親しみ、歌ったり、聞いたりして音楽を楽しむ。	経験したり想像したことを描いたり、作ったり、演じるなど表現活動を楽しむ。 友だちと協力して制作したり、発表する中で、一人でできない楽しさを味わう。

表3 町田市 私立B保育所 食事年間指導計画

食 事 年 間 指 導 計 画

月	目 標	指 導 内 容	季節の食べ物	子どもの活動
4	落ち着いて楽しく食べる	挨拶をはっきり言う 静かに食べる 友だちと仲良く食べる	草もち たけのこごはん	たけのこの皮むき
5	食べ物に関心を持ち食事に 関わることの楽しさを知る	季節の野菜を知る お手伝いをする(当番活動) 食べやすい配膳のしかたを身につ ける	柏もち グリーンピース そら豆	グリーンピース・そら豆の さやとり
6	身のまわりを清潔にする	手をきれいに洗い、拭く 爪をきれいにする 口のまわり、テーブルの上をきれい にする	水ようかん あじさいかん	カレー作り (キャンプに向けて) 梅干し作り
7 8	食べ物と体について知る	朝ごはんを食べる よく噛んで食べる	枝豆 とうもろこし	大地沢キャンプ(5歳児) 枝豆とり とうもろこし皮むき
9	みんなで楽しく食事ができ る マナーを身につける	こぼさないように気をつけ、こぼし たものは拾う 主菜、副菜等を交互に食べる 食器や持ち物の後片付けを正しく する	おはぎ 栗ごはん	月見団子作り
10	良い姿勢で食べる	食器や箸・スプーンを正しく持ち、 使う 左手を添える 足を揃えてきちんと座り食べる	きのこごはん	いもほり
11	好き嫌いをなく食べる	戸外で十分体を動かし空腹感を知る 嫌いなものががんばって食べる	やきいも いも汁	やきいも いも汁作り
12	食物に感謝の気持ちを持つ	米・野菜などを作る人、料理を作る 人に感謝する 自然の恵みを知らせながら食べ物を 大事にする	もちつき	もちつき クリスマスケーキのデコレ ション
1	食べ物を大切にする	遊び食いをしない 残さないようにする(自分の適量を知 る)	七草がゆ お汁粉(鏡開き)	どんどこ焼きの団子作り
2	一定時間で食べ終わる	一定時間内で切り上げる(およそ 30分) 食べながら話さない 食後は静かに過ごす	いり豆	お好み焼き
3	適度な会話を楽しみながら 心地よく食事をする	会話をする声の大きさに気をつける 友だちと一緒に食事をする楽しさ を知る	桜もち ぼたもち	お別れ会 レストランごっこ

(期末において)

食事についての総反省

(食事指導の年間目標)

保育目標より

- 1 丈夫な子ども・・・健康な体をつくる食べ方を身につける
- 2 意欲のある子ども・・・食事に関心を持ち食べることを楽しむ
- 3 心豊かな子ども・・・良い食事マナー(社会性)を身につける

表4 川崎市 公立C保育所 給食年間計画

平成17年度 給食年間計画

年間目標	衛生面		配慮点		作業面
	給食年間配慮点		給食日より(予定)		
	乳児	幼児			
<p>1. みんなで楽しく食べ、食事を通じて心の豊かさを育てる。</p> <p>2. 規則正しい生活リズムの中で、年齢にあった望ましい食習慣を身につけるようにする。</p>	<p>①週間衛生管理チェックリストに従って衛生管理を記録する。</p> <p>②まな板、包丁は使用後、使用後に熱湯またはアルコールをかけて消毒する。</p> <p>③調理前だけでなく、調理中にもこまめに手洗いをすること(特に、調理、調理後盛り付け時、果物盛り付け時、肉・魚・卵を扱った後は必ず行う。)</p> <p>④果物や肉ま物等、そのまま口にするものを扱う時はビニール手袋を使用。</p> <p>⑤ふきんや長器の消毒等は消毒してから10分間おこそう。</p> <p>⑥終了時シンク等に氷気が残らないようにする。</p>	<p>食事・栄養指導内容</p> <p>乳児 保育園の食事を知らせる。献立表・給食だよりの配布(年間)</p>	<p>配慮点</p> <p>給食日より(予定)</p>	<p>◎ 会食等(4回) ★ 行事等(7回) (お別れ会は2回に分ける)</p>	<p>①火の始末に気をつける。</p> <p>②作業の痛みがスムーズに行なわれるようにする。</p> <p>③けが、やけどに注意する。</p>
<p>・保育園の食事になる。</p> <p>・朝食を大切さを知らせる(年間)</p> <p>・食・物に親しむ。</p> <p>・歯の大切さを知る</p>	<p>・哺乳瓶において保育園での様子を知らせながら、無理なく哺乳をすすめる。(年間)</p> <p>・朝食の摂取と咀嚼力など、必要なおおして個別指導を行なう。(年間)</p>	<p>・空豆などの皮むきを体験させる。</p> <p>・虫歯予防の食教育</p>	<p>4月 朝食について</p> <p>5月 お弁当について</p> <p>6月 食事と虫歯予防、衛生について</p>	<p>◎子供の日会食4/26(火)</p> <p>★遠足【4.5歳】(こどもの日)5/23の週</p>	
<p>・夏を元気に過ごす。</p>	<p>・給食に使われている食材を8色に付ける指導</p> <p>・トワモロコシの皮むきを体験させる。</p>	<p>・給食に慣れている食材を8色に付ける指導</p> <p>・トワモロコシの皮むきを体験させる。</p>	<p>7.8月 夏の栄養と水分補給について</p>	<p>◎★七夕 7/7(水)</p> <p>★お祭りごっこ 7/15(夏祭り)</p>	
<p>・夏の疲れをとる食事をしらせる。</p> <p>・よく噛んで何でも食べる大切さを知らせる。</p> <p>・主食の大切さを知らせる。</p>	<p>・主食量調査</p> <p>・&lt;おこめ&gt;の摂取量をすすめる。</p> <p>・お箸の正しい使い方の、魚の食べ方を知らせる。</p> <p>・雑穀を混ぜて食べ物を身体の調子を知らせる。</p>	<p>・よく噛んで食べられるように工夫する。(切り方を大きくしたり、噛み応えのある食になるように工夫)</p>	<p>9月 夏入浴解消の食事(朝食も含め)</p> <p>10月 よく噛んで食べよう・うんちの出る食事(野菜を食べる)</p> <p>11月 主食の大切さについて</p> <p>12月 風邪の予防・病気の時の食事(特に下痢)</p>	<p>★運動会10/8(土)</p> <p>★遠足10/未定</p>	
<p>・寒さに負けず元気に過ごします。</p> <p>・望ましい食習慣を身につける。</p> <p>・みんなでお楽しみを。</p>	<p>・寒さにあったマナーを知らせる。(保護者にもつけても)</p>	<p>・寒さにあったマナーを知らせる。(保護者にもつけても)</p>	<p>1月 食事のマナーについて</p> <p>2月 食の安全について</p> <p>3月 彗旗をさるる大切さについて</p>	<p>◎餅つき1/11(水)</p> <p>★乳児遠足お祝い会2/18(土)(お別れ会)</p> <p>◎★ひな祭り会食3/3(金)</p> <p>★年園式3/18(土)(お別れ会)</p> <p>◎お別れ会食3/22</p>	
給食管理指導計画	<p>清掃箇所</p> <p>調理室の床</p> <p>シンク</p> <p>排水溝</p> <p>窓ガラス(内側)</p> <p>棚・食器保管庫、台車</p> <p>コンロなど</p>	<p>清掃箇所</p> <p>冷蔵庫</p> <p>まな板漂白</p> <p>トイレ</p> <p>記録室の掃除</p> <p>1階と2階のワゴン清掃</p> <p>その他</p>	<p>方法</p> <p>洗剤をつけ、デッキブラシでこする。</p> <p>洗剤をつけスポンジで洗う。</p> <p>海の中、雑器の裏表をデッキブラシ等でよく洗う。</p> <p>スポンジで洗う。</p> <p>洗剤をつけスポンジで洗う。</p>	<p>汚れを拭き取った後、逆性石けん(100倍希釈)で拭く。</p> <p>漂白剤を使用</p> <p>専用の道具で洗う。</p> <p>床を掃いて、ぞうきんで拭く。</p> <p>クレンザー等でみがき、水ぶきする</p> <p>非常用水の取り替え、配膳棚など</p>	<p>大掃除(年4回) - ゴキブリ駆除(2回)</p> <p>年末、年度末</p>



平成 / 17 年度 食 育 年 間 計 画

表5 平塚市 私立D保育所 食育年間計画

<p>0 歳 児</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい雰囲気の中で、食事や間食が食べられるようにする。</li> <li>・咀嚼や嚥下の発達を適切に促す。</li> <li>・1歳位から、こぼしながらでも一人でスプーンを持ち、容器を使って食べようとする意欲を育てる。又、コップを自分で持つ練習をする。</li> <li>・ミルク以外の味や、スプーンから飲むことに慣れさせ、家庭と連携をとって無理なく離乳を進める。</li> <li>・やさしい語りかけや温かい眼差しで見守りながら、ゆったりとした気持ちで授乳し、安定してミルクが飲めるようにする。</li> </ul>	<p>3 歳 児</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箸を正しく持つ。</li> <li>・苦手なものも自ら食べようとし、よく噛んで全量食べられるようにする。</li> <li>・お皿を持って食べる、肘をつかない、きちんと椅子に座る、こぼさず食べる等のマナーを身につける。</li> <li>・楽しい雰囲気の中で、自分で食事をしようという意欲を持つ。</li> </ul>
<p>1 歳 児</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スプーン、フォークを使って、一人で食べようとする。</li> <li>・咀嚼、飲み込みをしつかりと行い、何でも食べようとする。</li> <li>・食事や間食で汚れた顔や手を、自分で拭こうとする。</li> </ul>	<p>4 歳 児</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マナーを身につける。(椅子に正しく座る、食器を正しく置く、こぼさず食べる、箸の持ち方、等)</li> <li>・自分の食べられる量を知っていく。また、時間内に食べられるようにする。</li> <li>・食事をすすめる中で、食物に興味を持つ。</li> </ul>
<p>2 歳 児</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スプーン、フォークを正しく使って食事をすすめる。</li> <li>・基本的なマナーを知る。(お皿を持って食べる。肘をつかない。食べ物が口に入っているときは話さない。きちんと椅子に座る。)</li> <li>・楽しい雰囲気の中で、自分で食事をしようという意欲を持つ。</li> <li>・嫌いなものでも、少しずつ食べられるようにする。</li> <li>・食後にうがいをする。</li> </ul>	<p>5 歳 児</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事のマナーを身につける。(箸を正しく持つ、お皿を持って食べる。椅子に正しく座り肘をつかない、時間内に食べ終わる、等)</li> <li>・食事することの意味がわかり、楽しんで食事や間食をとる。</li> </ul>

平成17年度 調理保育・食育計画

目	「作る楽しみや食べる喜びを味わう」 ・日本古来の和食を基本とし、旬のものを利用した調理保育を行う。 ① 子どもの発達過程に見合った調理保育を計画する。 ② 調理保育を通して、五感で体験する。 ③ 子ども自身が明日を見とおし、必要なものを用意し、期待をする。 ④ 調理に必要な道具の使い方を教える。 ⑤ 火や用具の安全・衛生についてなど、生きていくために必要なことを教える。 ⑥ 昔から伝えられている行事食を通して食習慣を大切に伝える。 ⑦ 畑を通し、植物栽培・収穫の喜びを体験する。
目標	総合活動としての調理のねらい
家庭との連携	食事(子ども・家庭を含め)について家庭とともに考え、望ましい食生活を作る ① 子どもたちの調理体験の様子を伝え、家庭でも、親子で作って楽しめる体験を大切に促してもらう。 ② 子どもとともに、調理保育に期待を持ちながら、三角巾・エプロンを用意してもらおう(衣服を汚れから守るのではなく、衣服の汚れが食品につかないために用いていることを知らせる)つめを切ってくるよう連絡する。(爪の間にバイ菌がいることを知らせながら衛生に気心を持つ。) アレルギー児への配慮 ・みんなで作って、みんなが美味しく食べられるものを計画する。

2歳児クラス	ちぎる…次年度の調理保育につながるようクラスの活動として実施。	12月	クリスマス	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	
3歳児クラス	つぶす・丸める・ちぎる・むく ・日常的に、食材の名前や食品の名前を知る。 ・食事の中で使われるものや皮むき等の手慣れを喜んで行い、楽しく興味を持って食事を広げる。 ・食べられなかったものを食べてみようとする意欲を大切に量にこだわらず食の幅を広げる。	クリスマス	クリスマス	やきいも 芋煮会 芋洗い	芋掘り	十五夜 サンマに塩をふり 外で焼く	枝豆もぎとり	お泊り会5歳 お楽しみ会4歳 とうもろこしの 皮むき・芋洗い	網さやすじとり	網さやすじとり	グリーンベア 7/7のさやとり	よもぎつみ よもぎさ分け	ひな祭り お別れ会
4歳児クラス	柔らかい素材をナイフで切ることに慣れ、包丁へつなげる。 ・日常的に食品の名前を知ったり、食事作りで参加できる部分には、喜んで参加し、楽しく興味を持って食事を広げる。 ・食材を知ったり、また食品がどんなものからできているかなどに興味を持つ。 ・野菜や魚・肉などがどのように加工されて食卓に上がるか等にも興味や関心を持つ。	クリスマス	クリスマス	芋煮会	秋の収穫物 に触れる	異年齢合同 調理保育 ※お月見団子	野菜炒め ピーマンを使用し た料理作り	異年齢合同 調理保育 ※おにぎり 幼児クラス 梅干し作り	異年齢合同 調理保育 ※おにぎり 幼児クラス 梅干し作り	みそ汁作り だし作り見学 ちぎる作業 野菜を洗う	4.5歳児合同 よもぎ団子 すりばち すりこぎ	3.4歳児クラス 合同 お別れパーティー 料理作り	
5歳児クラス	総合的な活動として調理保育を楽しむ。包丁で切る。 ・いろいろな素材を包丁で切る。 ・調理器具の使い方を教える。 ・調理に必要な道具の使い方を教える。 ・火や用具の安全・衛生について知り、生きていくために必要なことを教える。 ・畑体験を通して、植物の栽培、収穫の喜びを体験する。	クリスマス	クリスマス	芋煮会	芋ほり遠足	※お月見団子 幼児クラス合同 グループ別 団子作り お供えを作る	お楽しみ会 献立作成 買い物体験 夕食作り	お楽しみ会 お泊まり会 夕食・朝食作り じゃがいも使用	お楽しみ会 お泊り会 実物大料理カードを使用し、夏野菜を含んだバランスのとれた献立作りを経験する。料理の材料を考え、担当者を決めて買い物へ行く。 4歳児クラスはナイフ作業、5歳児クラスは包丁作業を取り入れる。	お楽しみ会 お泊り会 実物大料理カードを使用し、夏野菜を含んだバランスのとれた献立作りを経験する。料理の材料を考え、担当者を決めて買い物へ行く。 4歳児クラスはナイフ作業、5歳児クラスは包丁作業を取り入れる。	異年齢合同 調理保育 ・もちつき ・焼き餅 味噌仕込み	異年齢合同 調理保育 ・もちつき ・焼き餅 味噌仕込み	
献立名	※お魚料理	※クッキー	※クッキー	※芋煮会	芋ほり遠足	※お月見団子	お楽しみ会 お泊り会	お楽しみ会 お泊り会	※おにぎり	※おにぎり	※おにぎり	※お魚料理	
備考	幼児クラス(可能な限り乳児クラスも見学)合同でまるのままの魚がさばかれていく様子を見学する。この日の給食は机の中央に主菜を置き、みんなであつつき合いながら食べる。 卒園お楽しみは最後の仕上げとして、素材が変化していく過程が体験できるもの(小麦粉からパンやヒザ 大豆から豆腐・納豆など)を取り入れる。	幼児クラス(可能な限り乳児クラスも見学)合同でまるのままの魚がさばかれていく様子を見学する。この日の給食は机の中央に主菜を置き、みんなであつつき合いながら食べる。 卒園お楽しみは最後の仕上げとして、素材が変化していく過程が体験できるもの(小麦粉からパンやヒザ 大豆から豆腐・納豆など)を取り入れる。	幼児クラス(可能な限り乳児クラスも見学)合同でまるのままの魚がさばかれていく様子を見学する。この日の給食は机の中央に主菜を置き、みんなであつつき合いながら食べる。 卒園お楽しみは最後の仕上げとして、素材が変化していく過程が体験できるもの(小麦粉からパンやヒザ 大豆から豆腐・納豆など)を取り入れる。	幼児クラス(可能な限り乳児クラスも見学)合同でまるのままの魚がさばかれていく様子を見学する。この日の給食は机の中央に主菜を置き、みんなであつつき合いながら食べる。 卒園お楽しみは最後の仕上げとして、素材が変化していく過程が体験できるもの(小麦粉からパンやヒザ 大豆から豆腐・納豆など)を取り入れる。	幼児クラス(可能な限り乳児クラスも見学)合同でまるのままの魚がさばかれていく様子を見学する。この日の給食は机の中央に主菜を置き、みんなであつつき合いながら食べる。 卒園お楽しみは最後の仕上げとして、素材が変化していく過程が体験できるもの(小麦粉からパンやヒザ 大豆から豆腐・納豆など)を取り入れる。	幼児クラス(可能な限り乳児クラスも見学)合同でまるのままの魚がさばかれていく様子を見学する。この日の給食は机の中央に主菜を置き、みんなであつつき合いながら食べる。 卒園お楽しみは最後の仕上げとして、素材が変化していく過程が体験できるもの(小麦粉からパンやヒザ 大豆から豆腐・納豆など)を取り入れる。	幼児クラス(可能な限り乳児クラスも見学)合同でまるのままの魚がさばかれていく様子を見学する。この日の給食は机の中央に主菜を置き、みんなであつつき合いながら食べる。 卒園お楽しみは最後の仕上げとして、素材が変化していく過程が体験できるもの(小麦粉からパンやヒザ 大豆から豆腐・納豆など)を取り入れる。	幼児クラス(可能な限り乳児クラスも見学)合同でまるのままの魚がさばかれていく様子を見学する。この日の給食は机の中央に主菜を置き、みんなであつつき合いながら食べる。 卒園お楽しみは最後の仕上げとして、素材が変化していく過程が体験できるもの(小麦粉からパンやヒザ 大豆から豆腐・納豆など)を取り入れる。	幼児クラス(可能な限り乳児クラスも見学)合同でまるのままの魚がさばかれていく様子を見学する。この日の給食は机の中央に主菜を置き、みんなであつつき合いながら食べる。 卒園お楽しみは最後の仕上げとして、素材が変化していく過程が体験できるもの(小麦粉からパンやヒザ 大豆から豆腐・納豆など)を取り入れる。	幼児クラス(可能な限り乳児クラスも見学)合同でまるのままの魚がさばかれていく様子を見学する。この日の給食は机の中央に主菜を置き、みんなであつつき合いながら食べる。 卒園お楽しみは最後の仕上げとして、素材が変化していく過程が体験できるもの(小麦粉からパンやヒザ 大豆から豆腐・納豆など)を取り入れる。	幼児クラス(可能な限り乳児クラスも見学)合同でまるのままの魚がさばかれていく様子を見学する。この日の給食は机の中央に主菜を置き、みんなであつつき合いながら食べる。 卒園お楽しみは最後の仕上げとして、素材が変化していく過程が体験できるもの(小麦粉からパンやヒザ 大豆から豆腐・納豆など)を取り入れる。	幼児クラス(可能な限り乳児クラスも見学)合同でまるのままの魚がさばかれていく様子を見学する。この日の給食は机の中央に主菜を置き、みんなであつつき合いながら食べる。 卒園お楽しみは最後の仕上げとして、素材が変化していく過程が体験できるもの(小麦粉からパンやヒザ 大豆から豆腐・納豆など)を取り入れる。	
畑の収穫	7月 お大根	7月 お大根	7月 お大根	7月 お大根	7月 お大根	7月 お大根	7月 お大根	7月 お大根	7月 お大根	7月 お大根	7月 お大根	7月 お大根	



表8 平塚市 私立F保育所 年齢別食育年間計画 その1 (乳児組)

17年度 年令別食育年間計画 (乳児組 0, 1, 2歳児)

	3ヶ月～6ヶ月未満児 (5ヶ月頃～準備食)	6ヶ月～9ヶ月未満児 (5～6ヶ月前期食, 7～8ヶ月中期食)	9ヶ月～12ヶ月 (9～11ヶ月後期食)	12ヶ月～1歳3ヶ月 (12～15ヶ月完了食)	1歳3ヶ月～2歳未満児 (15ヶ月～幼児食へ移行期食)	2歳児	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の子供の生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄の生理的欲求を満たし、生命の保身と生活の安定を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>徐々に離乳を進めて健やかな発育発達を促す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>離乳を進め、様々な食品に慣れさせる</li> <li>安心と安らぎの中で食べる意欲の基礎を作り、食事のリズムがもてるようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>離乳食が進み、完了期へ向かう</li> <li>自分で手づかみで食べようとする意欲が強まり嗜好がはっきりしてくる</li> <li>よく噛んで食べるようになる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな食品や調理形態に慣れ、楽しい雰囲気のもとで、食べることができるようになる</li> <li>食べる事に興味、関心がもてるようになる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しんで、食卓、間食をとることができるようにする</li> <li>食卓を味わって食べるようにする</li> </ul>	
子供の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>離乳食が始まる</li> <li>安心と安らぎの中でミルクを飲む心地よさを味わう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>離乳食が進み、食べ物や食器に手を出したり催促したりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事することがわかり、見て・触って・味わって、自分で食べようしたり、コップを持って飲んだりする</li> <li>いろいろな献立に慣れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手づかみしながら、だんだんスプーンやフォークに慣れさせる</li> <li>好き嫌いがはっきりしてくる時なので、食品は食べやすくしたり、雰囲気よくして、徐々に食べられるようにする</li> <li>一緒に噛む真似をして見せ、噛む事が身に付くようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな献立に慣れ、食べたいものを手づかみや、こぼしながらも、スプーンやフォークを使って食べる</li> <li>いろいろな献立に慣れ、食べたいものを手づかみや、こぼしながらも、スプーンやフォークを使って食べる</li> <li>よく噛んで食べるようにする</li> <li>箸を使って食べて見る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事に慣れる</li> <li>食事の量を加減してもらいたい</li> <li>スプーンやフォークで食べる</li> <li>よく噛んで食べるようにする</li> <li>箸を使って食べて見る</li> </ul>	
保育士の配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の便の状態や回数を把握し、健康状態のめやすにする</li> <li>体調や全体的な発育を早ながら、家庭との連絡を密にし、離乳食を始める</li> <li>アイコンタクト・優しい声かけ・温もりを通してミルクを与える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事をする時は、やさしく言葉をかけながら、落ち着いた雰囲気で作られるようにする</li> <li>咄しゃくや喉下の体験を通しておいしく食べる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事では噛むこと、飲むことを教えていく</li> <li>手づかみでも意欲的に食べている場合は、介助して満足していくまで食べさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事の時には、一緒に噛む真似をして見せ、噛むことが身に付くようにする</li> <li>楽しい雰囲気の中で、屋食にする</li> <li>活動により、多量に汗をかいた後は、水分の補給をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事の時には、一緒に噛む真似をして見せ、噛むことが身に付くようにする</li> <li>楽しい雰囲気の中で、屋食にする</li> <li>活動により、多量に汗をかいた後は、水分の補給をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しい雰囲気の中で、自分で食事しようとする気持ちを持たせ、嫌なものでも、少しずつ食べるように導く</li> <li>食事の前後においては、自分で清潔にしようとする気持ちがもてるようにする</li> </ul>	
栄養士との 意思疎通	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育士と栄養士と連絡を取り合い、一人一人の子供の状態に応じて、離乳を開始する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供の食べている様子を栄養士にも見てもらい子供の食べやすい形態を工夫してもらい</li> <li>離乳期からたくさん食品に親しませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しい雰囲気の中で、喜んで食事ができるようにし、保育士と栄養士と相談しながら、無理なく幼児食に移行させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手づかみで、食べやすい形態又は、スプーン、フォークで食べやすい形態の献立を工夫してもらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事は、自分食べられる大きさにカットしてもらおう。また、物によっては、噛み切る経験をさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3時のおやつは、補食となるようなものにする</li> <li>一人でも食べやすい器にもるように配慮してもらおう。</li> </ul>	
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者を対象に試食会・講演会を開く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯科検診(歯科医との連携をとる)を受ける。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>食事アンケートをとる</li> </ul>	
反省							

表9 平塚市 私立F保育所 年齢別食育年間計画 その2 (幼児組)

17年度 食育に関する年間計画 (幼児組 3, 4, 5歳児)

ねらい	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
<p>子供の活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物の育つ力を感じる</li> <li>・食べ物を育てる楽しさを味わう</li> <li>・楽しんで食事や間食をとることができるようになる</li> <li>・子どもが育てたいものを収穫し食べる。(野菜作りの体験)</li> <li>・こどもの日の行事食を食べる。</li> <li>・歯科巡回教室に参加する。</li> <li>・食後に歯磨きをする。</li> <li>・クッキーを作る</li> <li>・パネルシアター、エプロンシアター</li> <li>・絵本、雑誌展等を見る(年間を通して)</li> <li>・生活習慣予防教室に参加する。</li> <li>・遊びや本などを通して食べ物や身体の問題に関する体験を増やす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫に感謝の気持ちを持つ</li> <li>・料理作りへの関わりを持つ</li> <li>・友達と一緒に食事をする</li> <li>・友達と一緒におしゃべりを楽しむ</li> <li>・トマトの収穫</li> <li>・楽しい雰囲気の中で、友達と一緒に食事をする。</li> <li>・カレー作り</li> <li>・アイスクリームバイキングに参加する。</li> <li>・選択する楽しさを知る</li> <li>・七夕の行事食を食べる。</li> <li>・はなびらや葉を使い、ごちそう作りを楽しむ。</li> <li>・食事の時の姿勢を正しくする。</li> <li>・食卓に座って、量を減らせるように工夫する。</li> <li>・子どもの負担になるほど、残さず食べることを強制しない。</li> <li>・調理体験を通して素材に関心を持つたり、調理器具の使い方を学んだりする。</li> <li>・姿勢は食事以外の場でも指導する。</li> <li>・校食等により、献立の研修</li> <li>・調理についての意見交換</li> <li>・残量検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物への興味、関心を抱かせる</li> <li>・食事をするここの意味が分かり、楽しんで食事や間食をとるようにする</li> <li>・体や病気に必要な生活や態度を身に付ける</li> <li>・食器を決められた場所に片付ける。</li> <li>・食器が破損しない工夫をする</li> <li>・老人ホームの方達と食事をする</li> <li>・冬至の行事食を食べる。</li> <li>・おもちゃを遊ぶ。</li> <li>・買い物に行ってみる。</li> <li>・見る・触る・嗅ぐ・味わう(五感)を刺激する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事が楽しく、心地よいひとときとなるようにする。</li> <li>・現在をいきいきと生き、かつ生涯にわたって健康で高い生活を送る基本として食を営む力を育てる。</li> <li>・お正月料理を食べる</li> <li>・節分にちなんでの行事食を食べる</li> <li>・ひなまつりの行事食を食べる</li> <li>・友達のために準備することで満足感や達成感を得る。</li> <li>・食べ物や身体の事を話題にする</li> <li>・行事食から食文化に触れる</li> </ul>
<p>保育士の配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの日のいわれを話す。</li> <li>・七夕のいわれを話す。</li> <li>・歯の磨き方の指導をする。</li> <li>・食物や野菜の成長を知らせる</li> <li>・「育つ」という命の大切さを理解させる</li> <li>・食事をすすめる部屋としての雰囲気づくりに配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人差に応じて、量を加減できるように工夫する。</li> <li>・子どもの負担になるほど、残さず食べることを強制しない。</li> <li>・調理体験を通して素材に関心を持つたり、調理器具の使い方を学んだりする。</li> <li>・姿勢は食事以外の場でも指導する。</li> <li>・校食等により、献立の研修</li> <li>・調理についての意見交換</li> <li>・残量検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配膳や片付けを通して、感謝の気持ちを作る。</li> <li>・時には戸外で食べるなど、様々な食事スタイルを工夫する。</li> <li>・冬至についての話をする。</li> <li>・食から健康やかになることを知らせる。</li> <li>・子どもが配膳や後片付けなどに参加できるように配慮する。</li> <li>・調理員、栄養士等の、各クラスへの見学</li> <li>・子供からの意見収集</li> <li>・嗜好や喫食状況に基づき食事内容を改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おせち料理の意味を話す</li> <li>・節分のいわれを話す</li> <li>・ひなまつりのいわれを話す。</li> <li>・保護者を対象とした食に関する相談や講習会の開催。</li> <li>・食文化との出会いを探してみる。</li> <li>・子どもの周りに食事作りに関わる魅力的な活動を増やす。</li> <li>・旬を伝える</li> <li>・一年間の献立、調理方法等</li> <li>・についてのまとめ、反省をする</li> </ul>
<p>栄養士との意思疎通</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供、保育士、栄養士が一体となり「楽しい食事」のあり方を工夫する</li> <li>・行事食、季節食について話し合う</li> <li>・調理作業をしている場面を見たり、調理・栄養士と言葉をかわたりたりできる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢は食事以外の場でも指導する。</li> <li>・校食等により、献立の研修</li> <li>・調理についての意見交換</li> <li>・残量検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配膳や片付けを通して、感謝の気持ちを作る。</li> <li>・時には戸外で食べるなど、様々な食事スタイルを工夫する。</li> <li>・冬至についての話をする。</li> <li>・食から健康やかになることを知らせる。</li> <li>・子どもが配膳や後片付けなどに参加できるように配慮する。</li> <li>・調理員、栄養士等の、各クラスへの見学</li> <li>・子供からの意見収集</li> <li>・嗜好や喫食状況に基づき食事内容を改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おせち料理の意味を話す</li> <li>・節分のいわれを話す</li> <li>・ひなまつりのいわれを話す。</li> <li>・保護者を対象とした食に関する相談や講習会の開催。</li> <li>・食文化との出会いを探してみる。</li> <li>・子どもの周りに食事作りに関わる魅力的な活動を増やす。</li> <li>・旬を伝える</li> <li>・一年間の献立、調理方法等</li> <li>・についてのまとめ、反省をする</li> </ul>
<p>備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の方を対象に試食会、公演会を開く</li> <li>・歯科検診(歯科医師との連携をとる。虫歯、不正咬合など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、レシピを配布する。</li> <li>・生活実態調査</li> <li>・肥満児状況把握(5才児)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会にお年寄りを招待する(屋敷を共にする)</li> <li>・歯科検診(歯科医師との連携をとる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事アンケートをとる</li> </ul>
<p>反省</p>				

2) 食育プログラムの開発のモデルとなる  
保育所の実態

食育プログラムを開発・実施するモデル園として神奈川県川崎市の公立保育所から2園、同じく神奈川県相模原市の公立保育所から2園、計4つの保育所を選定した。

聞き取り調査によって、把握できた各保育所の概要は以下の通りである。

〔神奈川県川崎市幸区 公立G保育所〕

昭和55年の開園。区内で一番新しい公立保育所である。鉄筋コンクリート2階建ての園舎で、住宅・工場等が密集する中に位置し、幅の狭い道路を隔てて小学校・高校がある。その先には小さな商店街もある。

◆園児及び職員構成

対象とする保育年齢は0～5歳児で、定員は90名。7組編成で保育がなされている。本年度の入所児数・職員構成等は以下の表の通りである。

なお、保育士の年齢構成は、20代3名、30代2名、40代3名、50代10名である。

◆保育時間

- ・早朝は、0歳児、1,2歳児、3歳以上児で受け入れ。0～1歳児は、保育室で受け入れている。

- ・8:30～16:30はクラス別の保育。
- ・早めの帰宅は16～17名である。

◆保育の特徴

- ・保育目標は園独自に設定。
- ・異年齢児のかかわりも重視。
- ・0,1歳児は2階。2歳児から1階にて保育している。
- ・外遊び中心に保育している。
- ・散歩はやや少ない。地域性考え、チャレンジする力、クリアできる基礎体力重視している。
- ・保育活動は領域別を実施。
- ・話を聞ける子どもを心がけている。
- ・行事は“ヤラセ”にならぬよう、成長していくきっかけとして位置づけている。

◆食育実践の現状と課題

- ・年長児はよく食べる。極端な問題はなし。しかし朝食欠食は多い。
- ・保護者会（めろん会）を月1回実施し、理解・協力を促している。
- ・2～3歳は合同。食事室と分ける。遊びと食事、また食事と睡眠の関係に配慮しつつある。
- ・これまでは調理担当者に任せきりの部分が多かったが、今後は、何をク

【公立G保育所の園児及び職員構成】

組名	対象児	園児数	担任	フリー	その他
さくらんぼ組	0歳児	9名	3名	1名	全体フリー1名 看護師1名 用務員2名 (臨時1名含む)
いちご組	1歳児(低月齢)	9名	2名		
みかん組	1,2歳児	10名	2名		
れもん組	2歳児(高月齢)	12名	2名	1名	
りんご組	3歳児	17名	1名		
ばなな組	4歳児	21名	2名(加配1名)		
ぶどう組	5歳児	16名	1名		

リアしなければならないのかを、保育士が課題として明確にしていく必要がある。

◆実践検討の体制

- ・乳児会議、幼児会議、全体会議は、それぞれ月1回、17:00～18:00に実施。常に次席が出席。時に、終了が19:00になることもある。また、それぞれ、日中の打ち合わせを週1回行っている。
- ・フリー会議(フリー保育士)も実施。
- ・主任とは別にリーダー会議も実施。保育の合理的な仕事の推進の一環。乳児組、幼児組(30代と40代)からリーダーを出し、保育内容、保護者との対応について協議。次世代育成支援にも取り組む。それぞれ、クラスの傾向をベースに議論し合う。
- ・プロジェクト会議では、健康(リズム体操)と環境をテーマに検討。保育士研修の一環でもある。
- ・自主学习では、看護師などを講師に招き、勉強を進めている。
- ・会議のあり方は大きな課題。子どもの姿を通してもっと検討するといった“生きた会議”を行いたい。

〔神奈川県川崎市高津区 公立H保育所〕

昭和51年の開園。区内で比較的新しい公立保育所である。鉄筋コンクリート2階建ての園舎で、閑静な新興住宅地に位置している。

周囲には緑もあり、散歩圏内に大きな森林公園もある。

◆園児及び職員構成

対象とする保育年齢は0～5歳児で、定員は120名。7組編成で保育がなされている。本年度の入所児数・職員構成等は以下の表の通りである。

なお、職員の年齢構成は、保育士が20代3名、30代2名(育休中3名)、40代5名、50代5名。栄養士は20代。調理員は40代1名、50代1名である。

◆保育時間

- ・保育時間は7:30～19:00で、18:00からは延長保育。73名程度残る。
- ・早朝は、0歳児、1,2歳児、3歳以上児毎に受け入れ。
- ・8:30からクラス別の保育を開始。

【公立H保育所の園児及び職員構成】

組名	対象児	園児数	担任	フリー	その他
ひよこ組	0歳児	12名	4名	2名	栄養士1名 調理師2名 用務員2名 (臨時1名含む)
あひる組	1歳児(低月齢)	16名	2名		
はと組	1, 2歳児	17名	3名		
リス組	2歳児(高月齢)	20名	2名		
キリン組	3歳児	24名	2名	2名	
ぞう組	4歳児	24名	1名		
ライオン組	5歳児	25名	1名		

#### ◆保育の特徴

- ・常に笑顔で接する。
- ・気持ちの良い声であいさつする。
- ・3歳未満児は、保育者の人間的で優しい援助を受けながら、落ち着いた雰囲気の中で情緒の安定を計り、一人一人の豊かな個性を育む。
- ・3歳以上児は、保育者との安定した関係を基盤に恵まれた自然環境を取り入れながら、集団の中で一人一人の子どもが持っている力や要求を引き出し、友達と遊ぶ楽しさや喜びを知らせる。
- ・保護者や地域の人々が保育に参加する機会を広げ、共に子育てを進める。

#### ◆食育実践の現状と課題

- ・朝食欠食は多い。パンのみで、ご飯が足りない。孤食も多い。
- ・3歳児は食が細いが、全般的に給食の残食はなし。ご飯量は110を基準とするが、家庭により差があり、最大は180としている。
- ・保護者会（役員会）はインターネットでも情報公開している。
- ・乳児・幼児・補佐の3名で食育を担当。学習会も実施している。
- ・今までは栄養士のみが担当していたが、食育の位置づけを再検討中。
- ・毎月「給食だより」を発行。他のたよりとつなげ保護者の理解を促している。
- ・調理室内で配膳し、食事の盛りつけは保育士が担当。座席は自由としている。

#### ◆実践検討の体制

- ・乳児会議、幼児会議は月1回、17:00～19:00に実施。それぞれ園長・次席が出席。カリキュラム、実践の反省、ケース記録などの検討を行う。当番で

司会を担当。

- ・毎週水曜日、昼1時間は幼児組の話し合いを実施。
- ・行事の実行委員会は1～3名で担当。1～2ヶ月前から準備をし、乳幼児の会議を担当者が必要に応じて招集。実行委員会が原案作成し、決定は全体会議で行う。
- ・園内研は昼1時間を利用して実施。
- ・環境の会議は、物的環境（美化）を担当。
- ・第三者評価会議は、マニュアル作成にあたっている。
- ・保育士の研究会は、区の研究会と連動。体を使って遊ぶなどをテーマに研究。園庭のロープなどはその成果である。

〔神奈川県相模原市 公立I保育所〕

昭和52年の開園。鉄筋コンクリート2階建ての園舎で、駅前の公営団地内に位置している。

ただ、近隣の商店街は小規模であり、駅前でありながら周囲は落ち着いた雰囲気を持つ。散歩圏内に小さな公園も複数ある地域である。

#### ◆園児及び職員構成

対象とする保育年齢は0～5歳児で、定員は120名。5組編成で保育がなされている。本年度の入所児数・職員構成等は次頁の表の通りである。

#### ◆保育時間

- ・平日は7:00～19:00。うち延長保育は18:00～19:00。土曜日は7:30～17:00。
- ・早朝は、0歳児、1, 2歳児、3歳以上児に分かれて受け入れ。0～1歳児は、保育室受け入れている。



【公立 I 保育所の園児及び職員構成】

組名	対象児	園児数	正規職員	臨時職員
赤組	0, 1 歳児	18名(0歳児3名, 1歳児18名, うち4名が2歳児に移行)	3名(うち2名0歳)	3名(うち2名0歳)
桃組	2 歳児	22名(移行児により4名増)	2名	2名(うち1名移行により増)
黄組	3 歳児	29名	2名	
白組	4 歳児	21名(障害児1名含む)	1名	1名(障害児加配1名含む)
緑組	5 歳児	30名(障害児1名含む)	1名	1名(障害児加配1名含む)

◆保育の特徴

- ・幼児組を対象にオープン保育を実施。実践に際しては、保育室内に「ブロック」「ままごと」「絵本」「製作」のコーナーを常設。1週間程度かけて設定(課題)保育を実施。
- ・3歳児は1人1人をしっかり対応。
- ・2歳児は生活習慣を重視したプログラムを組んでいる。
- ・0, 1歳児は、コーナー保育を実施。
- ・4, 5歳児は、縦割りではないが、遊びを選んでいく中で出会いがあり。保育士から活動を提示するのではなく、子どもが選んでいくことを重視。

◆食育実践の現状と課題

- ・平成15年よりランチルームを創設。食器も磁器に変更。当番制で、自由にやりたい子から始める。失敗させながら、方法を教えている。
- ・平成16年度より、ハード面の工夫を開始。サンプルケースを見やすいかたちにした。また、栄養士によるレシピも発行。
- ・平成16年度の後半からは、配膳をバイキング形式に変更。子どもたちは自分で盛りつける中、「よく食べる」ようになった。

- ・平成17年度からは、サンプルケースの場所を移動し、「もぐばくコーナー」を作る。年3回「もぐばく通信」も発行。ポップ体で楽しく読んでもらう。職員自慢のレシピも紹介。
- ・夏場には「とうもろこしの皮むき」「インゲンのさやむき」などを実践。2月にはパンのリクエストやケーキバイキングも実施した。
- ・0, 1歳児から食育を実施。
- ・春と冬の年2回、クラス懇談会を実施。1月には試食会も兼ねて実施。
- ・現在、各クラスで食育マニュアルを作成中。食育の取り組みを中身の濃いものにしたい。

◆実践検討の体制

- ・職員会議は月1回。年4回は遅番終了後の17:00以降に実施。
- ・主査会議は、5名で月1回実施。赤組より2名参加。
- ・幼児組、乳児組の会議が月1回。
- ・リーダー会議は不定期。
- ・給食室(3人)と園長、副園長、乳児1名、幼児1名による会議あり。乳幼児組の担当者は交代で出る。
- ・オープン保育の話し合いは、2ヶ月に1回、17:00~19:00の間で実施。

- ・クラスの話し合いは月1回。午睡時にも実施。
- ・他に、係別の会議、自主研もあり。

〔神奈川県相模原市 公立J保育所〕

昭和53年の開園。鉄筋コンクリート2階建ての園舎で、大学・高校等の学校群の一角に位置している。近隣には、大小の公園があり、緑も豊かである。

◆園児及び職員構成

対象とする保育年齢は0～5歳児で、定員は120名。5組編成で保育がなされている。本年度の入所児数・職員構成等は以下の表の通りである。

◆保育時間

- ・平日は7:15～18:15。土曜日は8:30～17:00。
- ・早朝は、0歳児、1,2歳児、3歳以上児に分かれて受け入れ。0～1歳児は、保育室受け入れている。

◆保育の特徴

- ・生活に必要な基本的習慣や態度を養い、健康な体づくりを進めている。
- ・人との関わりの中で自主、協調の態度を養っている。
- ・様々な活動を通して豊かな感性と集中力を養うことを大切にしている。

- ・3歳以上児ではオープン保育の実施。オープン保育では、運動会、発表会、凧揚げ、行事(思い出画)などの活動を誘導していている。
- ・0,1歳児は家庭的な雰囲気を重視している。
- ・園だよりで、保護者向けに遊びの提供を行っている。

◆食育実践の現状と課題

- ・園長の姿勢が肝心と考え、就任1年目だが頑張っている。
- ・食育ボックスを設置し、保護者向けのおすすめメニューなどを紹介している。
- ・11時に全館放送を実施し、当番がランチルームの準備をする。
- ・パンがあまり進まず、ジャムとマーガリンのバイキングを実施。ただ、日常的にバイキングは実施できていない。ワゴンもカラフルするなど道具の充実もはかりたい。
- ・保護者向けに1日2回の食事の充実を促したい。
- ・4,5歳児はプランターでナス・ミニトマト栽培。みそ汁に入れてもらう。また、庭木としてぶどうがある。

【公立J保育所の園児及び職員構成】

組名	対象児	園児数	正規職員	臨時職員
赤組	0,1歳児	18名(0歳児3名,1歳児18名,うち4名が2歳児に移行)	3名(うち2名0歳)	3名(うち2名0歳)
桃組	2歳児	22名(移行児により4名増)	2名	2名(うち1名移行により増)
黄組	3歳児	29名	2名	
白組	4歳児	21名(障害児1名含む)	1名	1名(障害児加配1名含む)
緑組	5歳児	30名(障害児1名含む)	1名	1名(障害児加配1名含む)

#### ◆実践検討の体制

- ・離乳食会議、給食会議は月1回。このうち、給食会議は乳児、幼児の代表が1名ずつ参加。人気メニューを話し合う。
- ・全職員会議は年4回。
- ・幼児会議は週1回、木曜日に実施。
- ・乳児会議は週2回。
- ・その他に、ケース会議を主とする自主研を実施。

#### 〔モデル園の計画の実際〕

次に、聞き取り調査によって把握できたモデルとなる4つの公立保育所の計画の実際は、表10～15に示した通りである。

なお、4園ともに公立保育所であり、それぞれの保育計画及び指導計画は、概ね市として統一した様式に従って記述されている。そのため、今回はいずれか1園の計画を示すことに留めた。

そのうち、川崎市のモデル園の場合は、保育実践を進める上で園の全体的な計画となる保育計画に関しては表11に見られるように、3歳以上児については『保育所保育指針』に示されたいわゆる5領域を参考に、「健康」「人間関係」「環境」「言語」「表現」の5つの項目から整理し、年齢別にねらいを整理している。

ただ、3歳未満児については、独自の観点から内容を構成し、表10に見られるように「健康」「生活」「言語・認識」「情緒・人とのかかわり」「運動・遊び」の5つの項目から整理し、6年間の保育課程における成長・発達の見通しを掲げている。

また、実践に最も身近で、具体的な見通しを立案する年齢別の指導計画に関しては、

保育計画に示した内容に加え、年齢毎の「年間目標」「発達の特徴」「配慮」を加え、編成していた。期の区分に関して、年間を4つに分けていることも各年齢共通であった。表12に見られるように、在所する乳幼児全てを対象に具体的な活動・行事等の計画も作成し、年齢別指導計画を作成する上で、共通に理解しておくべき事柄をコンパクトに整理しているケースも見られた。

なお、保育計画・指導計画に加えて、年間保健（健康管理）計画、年間食事計画、年間食育実践計画等も作成されていた。

一方、相模原市のモデル園の場合は、保育計画に関しては表13～14に見られるように、『保育所保育指針』に示された年齢区分に従って、「ねらい」に基づき、幼児組はいわゆる5領域から内容を編成していた。

ただ、乳児組については表13に見られるように、内容に独自に「生活」「遊び」の2領域に区分し、構成していた。

さらに年齢別の年間指導計画に関しては、表15に示す通り、年間を4期に区分した上で、「ねらい」「内容（子どもの姿）」の2項目から大まかに記述していた。保育計画に示した年齢毎の領域を視点においた内容構成について、この年間指導計画ではなく、月別の指導計画から採用されていた。

また、相模原市が独自に採用しているオープン保育に関する計画や、発達段階に沿った食育の取り組み・配慮事項等については、各園なりに独自に計画・立案されていた。

表 10 川崎市公立G保育所 保育計画 その1 (0～1歳)

保 育 計 画		
	0 才	1 才
健 康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適に生活できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健的で安全な環境をつくり、一人ひとりの子どもの身体の状態を観察し、睡眠など適切な休息を用意し、快適な生活ができるようにする。</li> </ul>
生 活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一人の子どもの生活のリズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図り、甘えなどの依存的欲求を満たし情緒の安定を図る。</li> <li>・ 個人差に応じて離乳を進め、色々な食品に慣れさせ乳児食への移行を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。</li> <li>・ 保育士の愛情豊かな受容によって、清潔で気持ちの良い生活ができるようにする。</li> <li>・ 安心できる保育士との関係のもとで食事、排泄などの活動を通して、自分でしようとする気持ちの芽生えを促す。</li> </ul>
言 語・ 認 識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 優しく語りかけたり、発声や喃語に应答したりして、発語の意欲を育てる。</li> <li>・ 絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり触ったりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言語の習得を図り、友達との関わりが持てるようにする。</li> <li>・ 保育士の語りかけを喜んだり、自分から片言でしゃべる、使う、事を楽しむ。</li> <li>・ 身の回りの様々なものを自由にいじって遊び、外界に対する好奇心や関心を持つ。</li> <li>・ 絵本に興味のある子どもにする。</li> </ul>
情 緒・ 人との 関 わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育士と一人ひとりの子どもとの愛着関係を築きながら甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。</li> <li>・ 安心できる人的物的環境のもとで、子どもが興味を持ち、自分からしてみようとする意欲を大切に温かく見守る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育士と一人ひとりの子どもとの愛着関係を築きながら、生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を十分満たす。</li> <li>・ 情緒の安定を図り、ひとり遊びを十分に楽しませ、友達にも自分から関わる事を見守る。</li> <li>・ 絵本、玩具などに関心を持ち、それらを使ったあそび子ども同士の関わりを、温かく見守り適切な援助をする。</li> <li>・ 自己主張を尊重する。</li> </ul>
運 動・ 遊 び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を変えたり移動したりして色々な身体活動を十分に行なう。</li> <li>・ 身の回りのものに対する興味、関心を促し、探索活動が十分出来るようにする。</li> <li>・ 見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な生活、あそびを通して、自由な活動を十分行い、身体を動かす事を楽しむ (登る・下る・押す・跳ぶ・くぐる・引っ張る) (いじる・たたく・つまむ・転がす)</li> <li>・ 身近な音楽に親しんだり、身体の動きを楽しんだりする</li> <li>・ 周囲に興味や関心を示し、好きな遊びを見つけて楽しめらうにする。</li> </ul>